

近畿中国局フォレスターNEWS

再造林の省力化とシカ対策に関する現地検討会の開催について

令和3年12月7日(火)、8日(水)の2日間、近畿中国森林管理局と国立研究開発法人 森林総合研究所 関西支所、和歌山県、Bブロック(和歌山県、三重県、滋賀県、奈良県)関係署等との共催により、再造林を促進するための課題解決に向けた「再造林の省力化とシカ対策」をテーマに、現地検討会を開催しました。

現地検討会には、府県、市町村等の林務担当者や森林組合等、2日間で、延べ250人を超える森林・林業関係者が参加し、関心の高さが伺われました。

1日目は、和歌山県田辺市内の会場で、国、県、研究機関のそれぞれの立場から再造林の省力化、エリートツリー、シカ対策等の課題について6つの講演が行われ、その後、参加者と活発な意見交換を行いました。

2日目は和歌山県すさみ町の宮城川国有林で、ドローンによる資材運搬、捕獲したシカ個体の運搬の実演や国有林が取り組む保育作業の省力化等の成果を見ながら、説明を行いました。

2日間を通し、参加者からは、「再造林の省力化・低コスト化が再造林を推進していく上で重要であると再認識できた。」等のご意見をいただき、盛況な現地検討会となりました。

今後も近畿中国森林管理局では、国有林のフィールドを活用した現地検討会等の開催により森林・林業に関する技術を普及し、地域の森林・林業の発展に貢献する取組を継続していきます。また、当日の現地検討会の様子は動画を作成し、近畿中国森林管理局ホームページで公開を予定しています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/sidou/gijyutukaihatu/211207.html>



意見交換の様子



和歌山署職員による冬下刈り説明

冬下刈り実施による情報交換会の開催について (山口森林管理事務所)

令和3年11月25日(木)、山口市に位置する滑山(なめらやま)国有林において「冬下刈り実施による情報交換会」を開催しました。

当日は晴天に恵まれ、山口県、山口市、萩市、林業事業者関係者等、総勢14名の方にご参加いただき、まず、事業地の概要説明と四国森林管理局や近畿中国森林管理局和歌山森林管理署が実施した冬下刈りの事例を紹介しました。その後、令和3年度冬下刈りを実施した場所へ移動し、平木森林整備官による事業地の施業履歴等の説明と、現地を確認しながら情報交換を行いました。

請負事業者から、「安全面では冬下刈りの方がいい」「夏も冬も工程的にはそんなに違いがない」「作業員の労働軽減から下刈りの作業が冬にできれば作業の調整がやりやすくなる」等の意見が出され、地方公共団体からは、造林事業等における省力化の取組や、萩市からは、令和2年より冬下刈りの試験を行っている試験地の現地を見学ができたとの情報提供がありました。

参加者からは、「下刈りについては、現地の状況に応じて夏場・冬場又は実施しない等、植栽木の成長に合わせた、効果的で効率的な時期等を選択できるようにすることが大切」「今後も情報交換会を続けていただきたい」などのご意見をいただき情報交換会を終了しました。



森林整備官による事業地説明



冬下刈り情報交換会の様子

ICTによる森林管理とシカ被害対策現地検討会について（奈良森林管理事務所）

令和3年12月9日(木)、奈良県吉野郡天川村に位置する入谷(いりたに)国有林において、「林業の成長産業化を目指して～ICTによる森林管理とシカ被害対策～」と題して現地検討会を開催しました。

当日は、奈良県をはじめとした県内の行政機関、林政に携わる事業者など、総勢27名の方々にご参加いただき、まず、「ICTによる森林管理」について、近畿中国森林管理局における試験研究機関である森林技術・支援センター(岡山県新見市)の篠原所長から、地上レーザースキャナによる森林計測、ドローンを使ったシカ防護柵点検の手法等について講義を行い、続いて、近畿中国森林管理局がシカ被害対策として、推奨している「小林式誘引捕獲法(こばやしきゆういんほかくほう)」について、考案者である当局保全課小林係長が講義・実演を行いました。

地上レーザースキャナについて初見の方も多かったせいか、参加者の方々は実演等を食い入るように見学されていました。また、シカの捕獲手法である「小林式誘引捕獲法」につきましても、考案者からの設置に関する説明及び実演に興味津々の様子でした。

現地検討会終了後、参加者の皆様からいただいたアンケートには、大変満足したとのご感想と、今後もこのような現地検討会の開催を望む声を多数いただきました。

地域における計画的な森林整備を推進するため、各市町村が中心となって森林経営管理法に基づき、森林環境譲与税を活用し、地域の森林所有者をとりまとめ、市町村森林整備計画による中長期的な計画を行う中で、森林資源の把握を行う手法として担い手不足を軽減する意味でも、今回の現地検討会で行った「地上レーザースキャナ」の活用は画期的である反面、機器購入における予算の確保や、森林計測における精度の克服(樹高計測の精度)などの課題があると考えています。また、「小林式誘引捕獲法」についても、国有林の中での捕獲効率の向上など成果が上がる一方、民有林への普及まで至っているとはいえないこと、狩猟者の後継者問題など、様々な課題が顕在しています。

今後もこれら課題を踏まえ、国有林のフィールドを活用した効果検証を行いつつ、得られた成果については、今回のような現地検討会の場を通じて、広く普及啓発に取り組んで参ります。



背負い型スキャナ計測器の体験



小林式誘引捕獲法ワナ設置の実演

林野庁

近畿中国森林管理局

技術普及課

国民の森林・国有林

TEL : 06-6881-3524 FAX : 06-6881-3553

URL : <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目8-75

編集後記

今号は、近畿中国森林管理局管内で実施した現地検討会を紹介しました。現地検討会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に十分配慮しながら実施しました。次年度も引き続き、民有林の支援に向け、各署等において現地検討会を開催していきます。